

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】令和 4 年 1 月 31 日(2022.1.31)

【公開番号】特開 2020-143758(P2020-143758A)

【公開日】令和 2 年 9 月 10 日(2020.9.10)

【年通号数】公開・登録公報 2020-037

【出願番号】特願 2019-42155(P2019-42155)

【国際特許分類】

F 1 6 D 43/10(2006.01)

F 1 6 D 13/52(2006.01)

F 1 6 H 55/56(2006.01)

F 1 6 H 9/18(2006.01)

10

【F I】

F 1 6 D 43/10

F 1 6 D 13/52 C

F 1 6 H 55/56

F 1 6 H 9/18 Z

【手続補正書】

20

【提出日】令和 4 年 1 月 21 日(2022.1.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0049

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0049】

[ウェイト部材 6]

ウェイト部材 6 は、カム部材 3 とともに回転して遠心力を受けるように配置されている。詳細には、ウェイト部材 6 は、カム部材 3 の収容部 34 内に収容されている。なお、複数のウェイト部材 6 は、周方向に間隔をあけて配置されている。ウェイト部材 6 は、円柱状である。ウェイト部材 6 は、その外周面が第 1 カム面 31 と当接するように配置されている。このため、ウェイト部材 6 は、遠心力が作用すると、径方向外側且つ軸方向の第 1 側に移動可能である。ウェイト部材 6 は、クラッチ部 5 を軸方向の第 1 側に押圧するように構成されている。過剰なトルクが入力されたとき、ウェイト部材 6 は、径方向外側に移動して規制部 32 と当接する。このようにウェイト部材 6 が規制部 32 と当接すると、それ以上の押圧力がクラッチ部 5 に掛からない。

30

40

50